

問(3) 19世紀になると、欧米諸国でも公開試験により官僚を任用する制度が普及したが、試験によらない任用制度も存在した。これに関する以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) イギリスにおける公開試験の官僚任用制度は、インド統治のための高級官僚採用を目的とする、1855年のインド高等文官試験に始まる。インド人の最初期における合格者であるバネルジーは、イギリス人上司の人種差別のため不当に解雇され、インドの民族運動の指導者となり、1885年の国民会議の結成にも参加した。初期は親英穏健派が中心であった国民会議は、1905年にインド総督カーゾンによって出されたベンガル分割令を機に、翌年開かれたカルカッタ大会で、スワデーシなどの綱領を採択するにいたった。ベンガル分割令の内容と目的について、2行以内で記しなさい。

(b) アメリカ合衆国で公開試験制度による官僚登用が行われるようになるのは、1885年以降であるが、現在でも各省の局長など行政府の基幹ポストは試験任用ではなく、短期在職を前提に政治任用され、その人数は3000人にも上る。これは、1829年から1885年にかけて行われたスポイルズ = システムと称される官僚任用制度の伝統が残っているためと考えられる。この官僚任用制度により、東部の有力者による官職の独占が打破され、民主化が進展したが、当時の民主政治には参政権が特定の人々に限定されるなど、限界があった。当時の民主政治の限界について、大統領の名前に触れながら、4行以内で記しなさい。